

全道8月中の交通事故分析について (過去5か年死亡・重傷事故)

令和4年7月13日
警察本部交通企画課

【概況】

- 発生件数全体の事故類型では、自転車対車が最も多く、次いで人対車両が多い。
死亡事故の事故類型では、正面衝突及び車両単独が最も多く、次いで人対車両が多い。
- 四輪乗車中の死者のうち、約5割がシートベルト非着用で、非着用のうち7割がシートベルトを着用していれば助かった可能性が高い。
- 人対車両は、時間帯別では8時から10時が最も多く、次いで14時から16時及び18時から20時が多い。
- 地形別では市街地の交差点が最も多く、次いで市街地の直線が多い。
- 人対車両の第1当事者(車両)の違反別では、安全不確認が最も多く、次いで前方不注意が多い。
年齢層別死傷者数では、65歳以上が最も多く、全体の約6割を占めている。
道路横断中の死者のうち、歩行者側の約7割に信号無視などの法令違反あり。
- 正面衝突及び車両単独は、時間帯別では16時から18時が最も多く、地形別では非市街地カーブが最も多い。
- 正面衝突及び車両単独における第1当事者の年齢層別では、65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで24歳以下の若年運転者が多い。
- 自転車対車は、時間帯別では16時から18時、地形別では市街地の交差点、事故類型別では出会い頭が最も多く、出会い頭のうち、自転車側の約5割に信号無視や一時不停止などの法令違反あり。
年齢層別死傷者数では、65歳以上の高齢者が突出して多い。

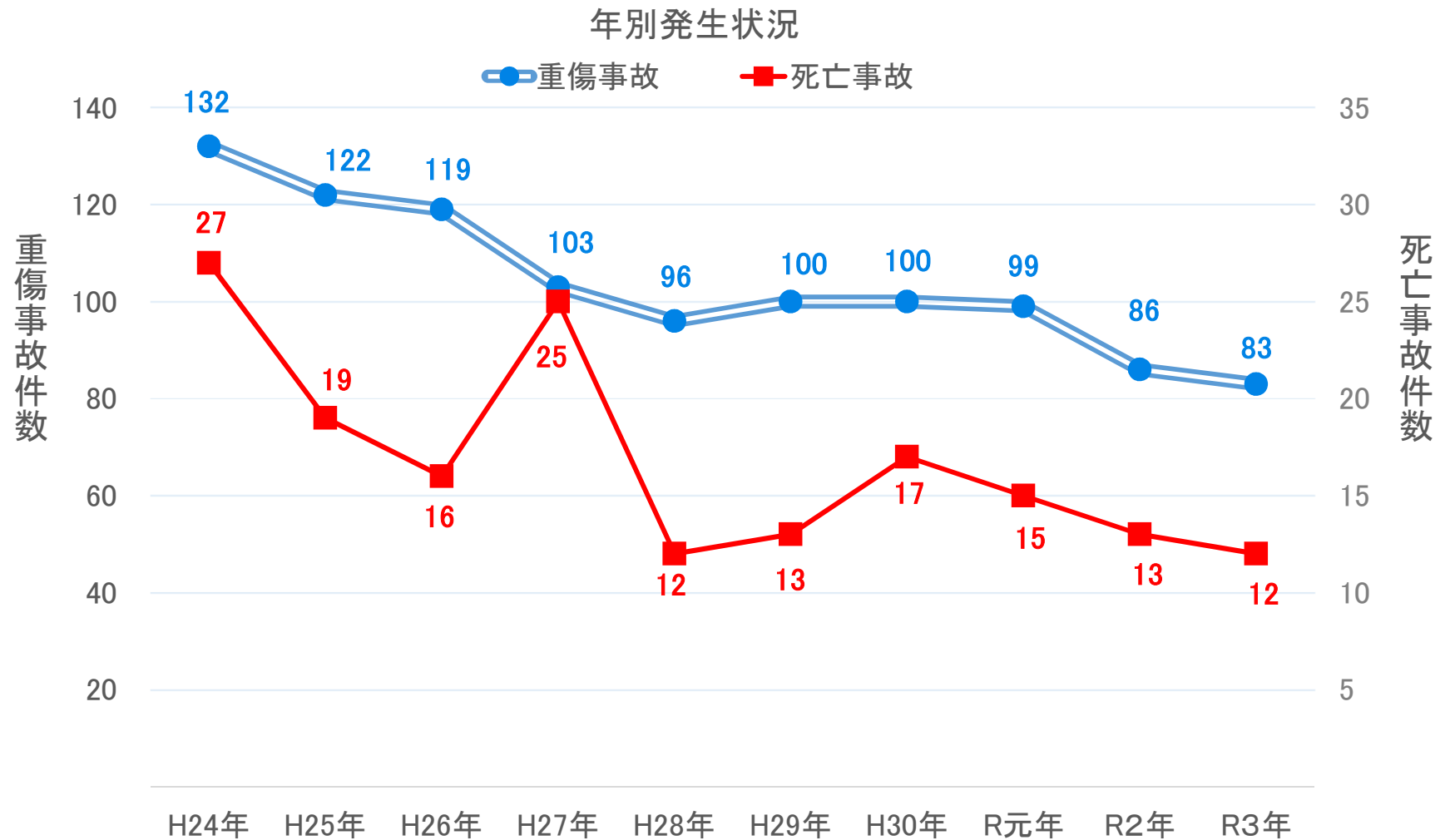
注1 本資料は、令和3年12月末日までに入手した8月中発生 of 事故データにより作成したものである。

注2 「重傷」とは、1か月(30日)以上の治療を要する負傷をいう。

注3 「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等(列車を含む。)の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者、又は過失が同程度の場合には人身損傷程度が軽い者をいい、本資料中の「1当」とは、第1当事者を省略した表記である。

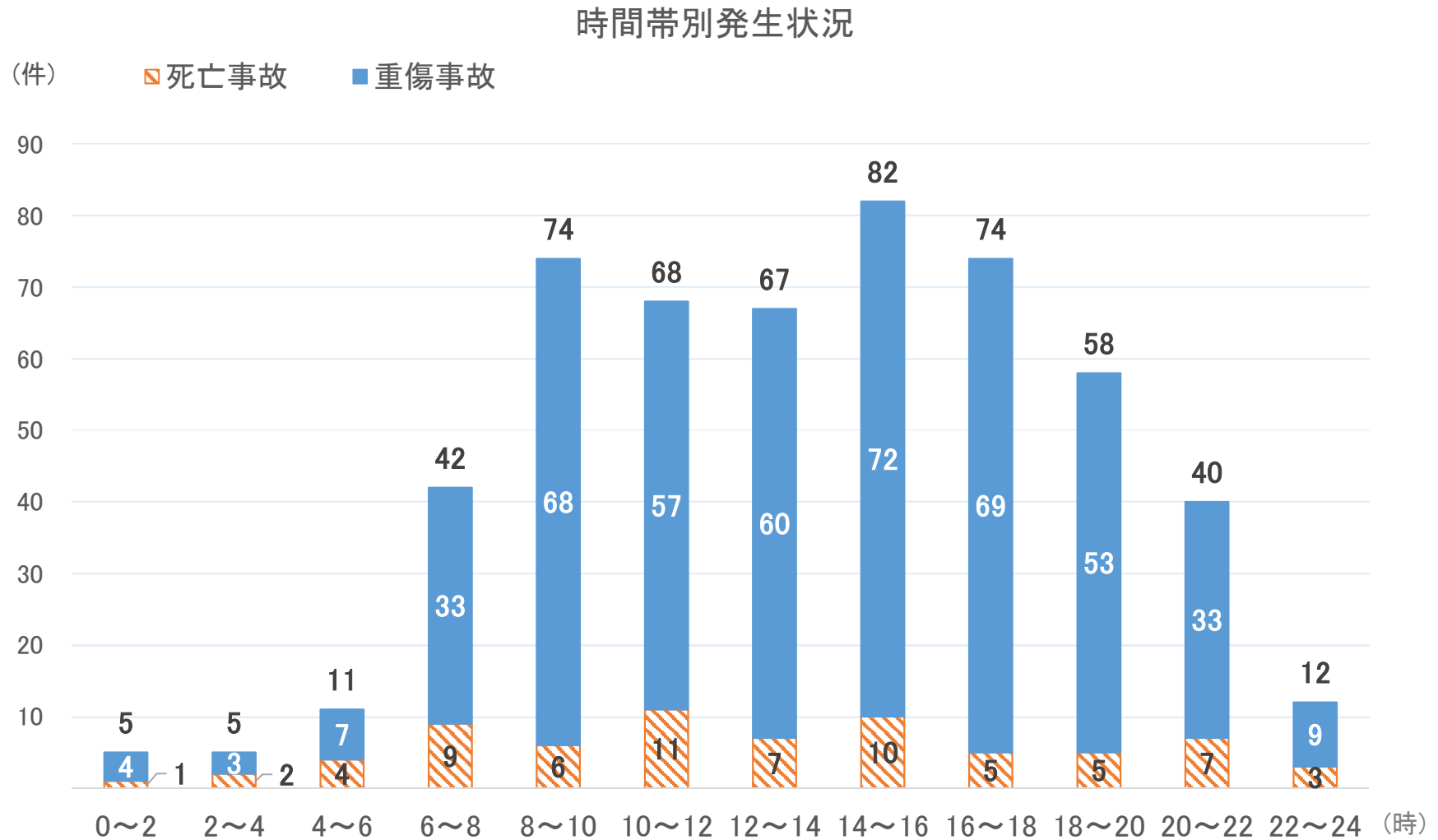
1-1 年別死亡・重傷事故発生状況

年別の死亡事故件数、重傷事故件数については、いずれも平成24年をピークに減少傾向で推移している。



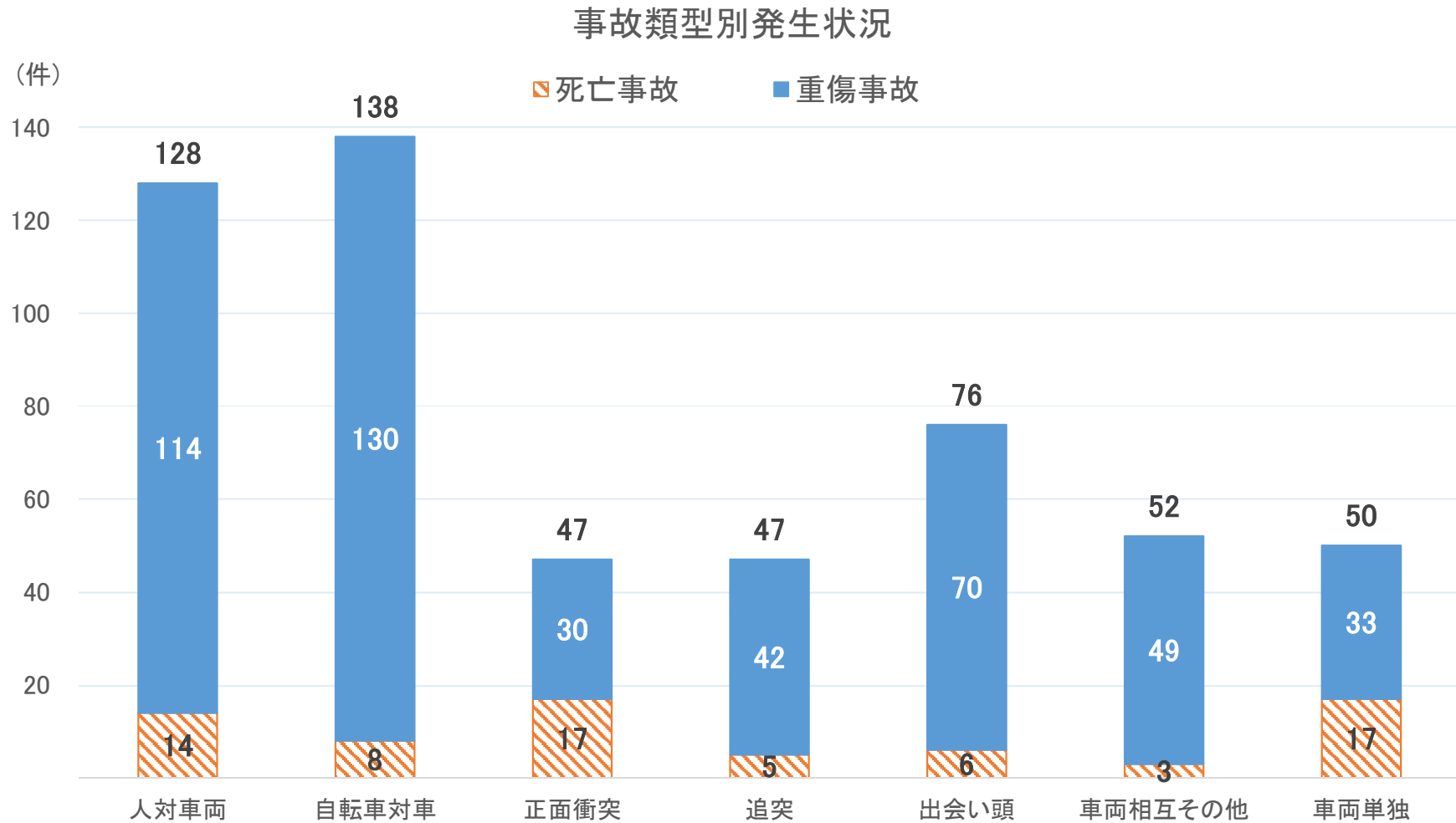
1-2 時間帯別死亡・重傷事故発生状況

14時～16時が最も多く、次いで8時～10時及び16時～18時が多い。



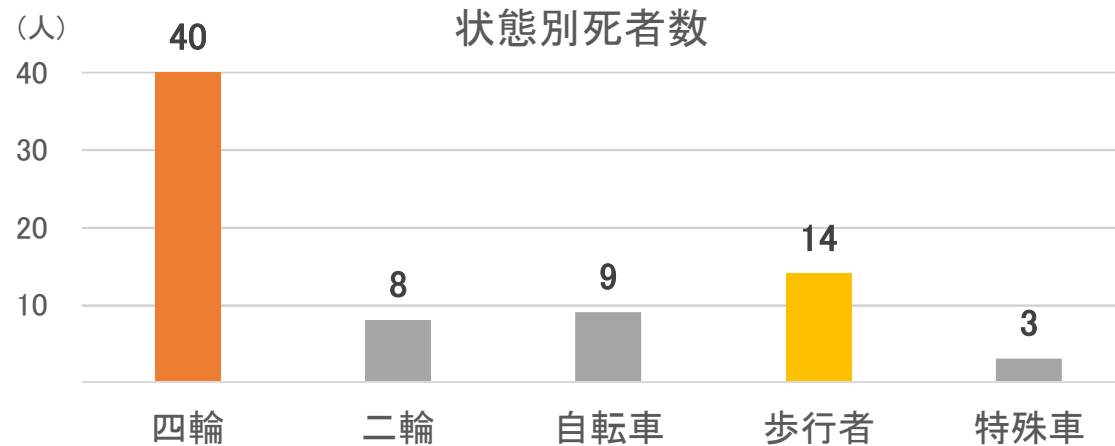
1-3 事故類型別死亡・重傷事故発生状況

発生件数全体では、自転車対車が最も多く、次いで人対車両が多い。
死亡事故は、正面衝突及び車両単独が最も多く、次いで人対車両が多い。

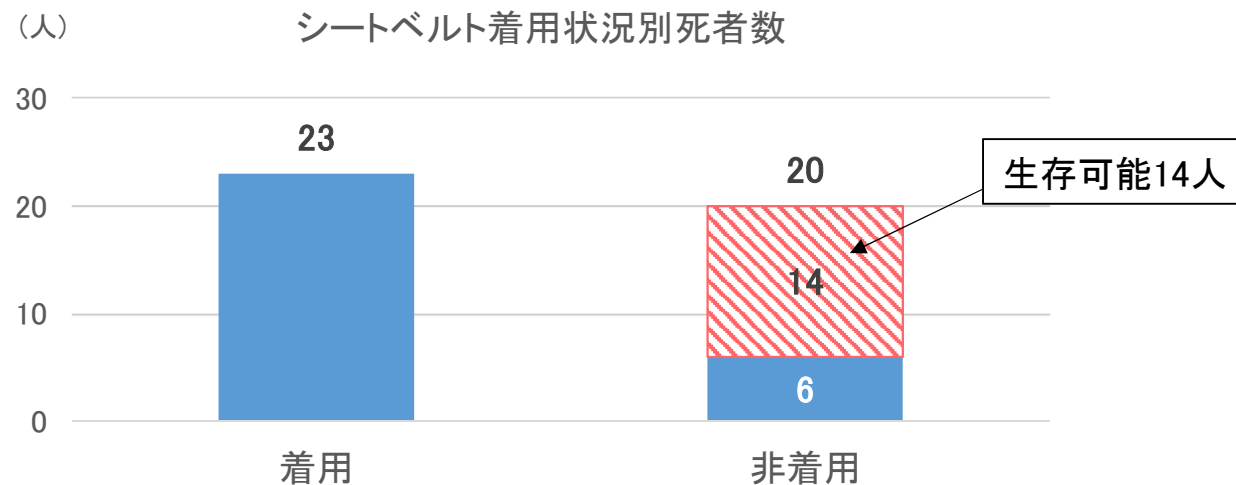


1-4 状態別死者数、シートベルト着用関係

状態別死者数は、四輪乗車中が最も多く、次いで歩行中が多い。

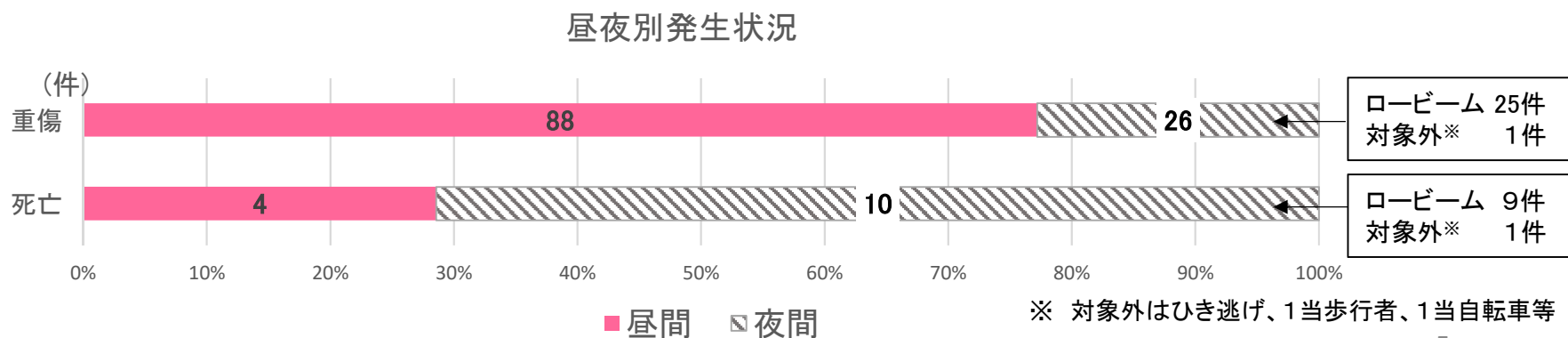
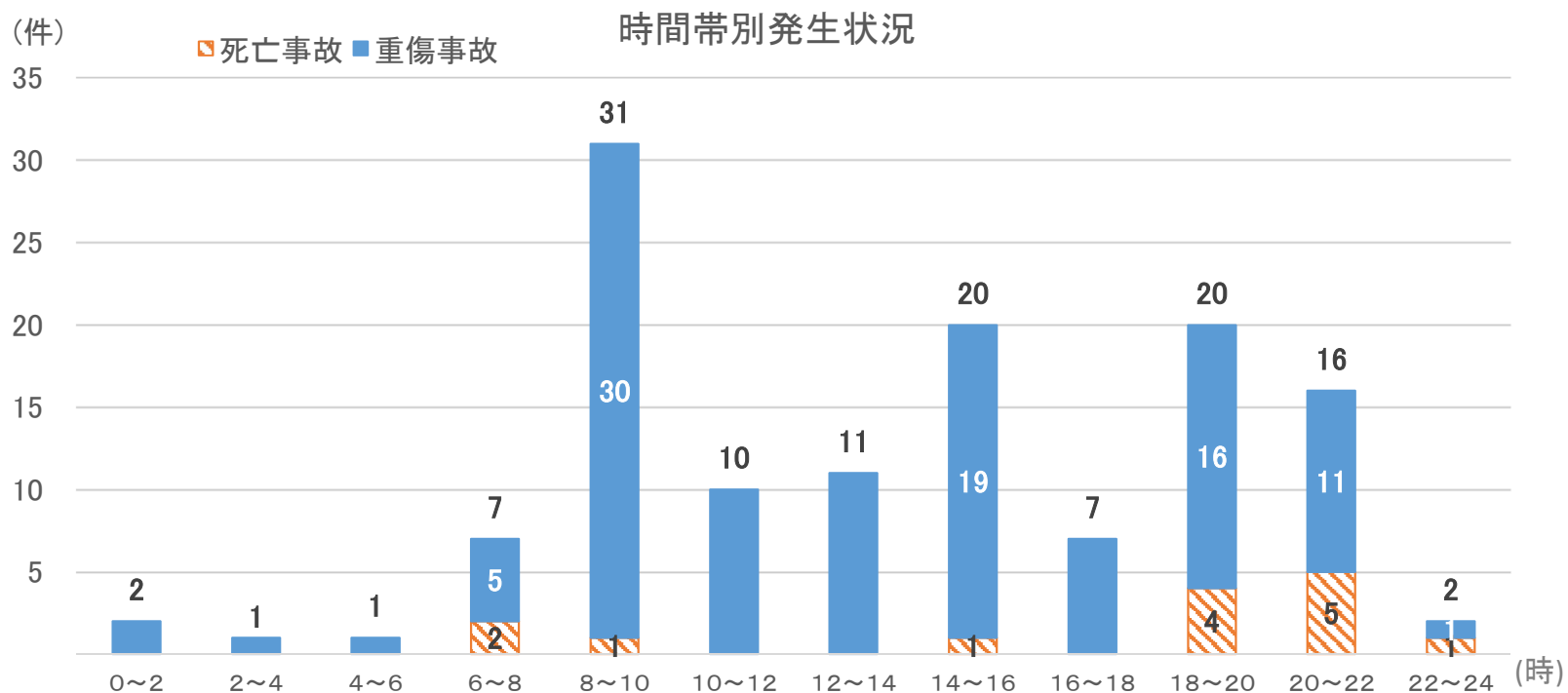


シートベルト着用対象者(四輪及び特殊車)の死者43人中、シートベルト非着用者は20人(46.5%)であり、このうち14人(70.0%)はシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。



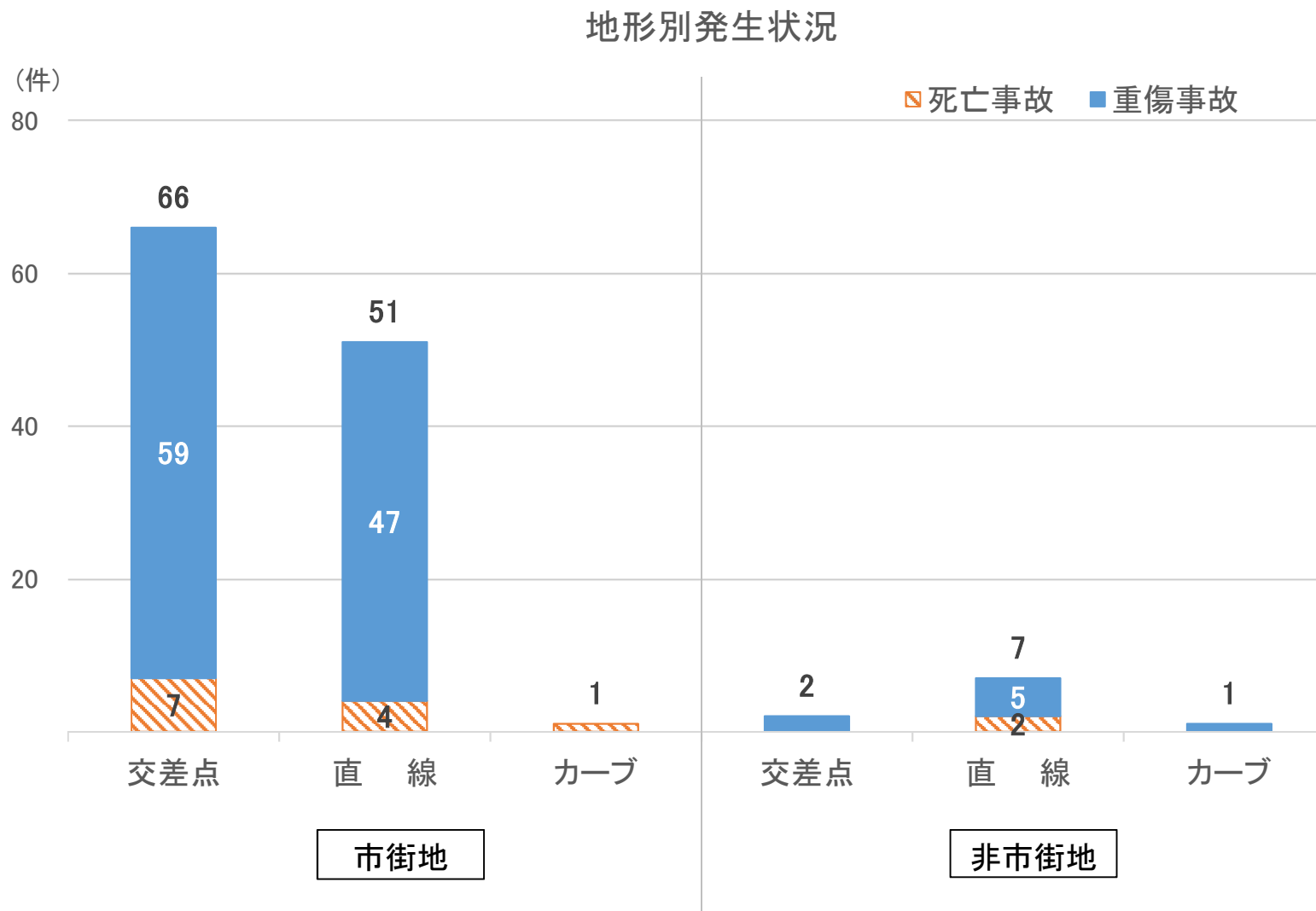
2-1 人対車両における時間帯別発生状況

8時～10時が最も多く、次いで14時～16時及び18時～20時が多い。



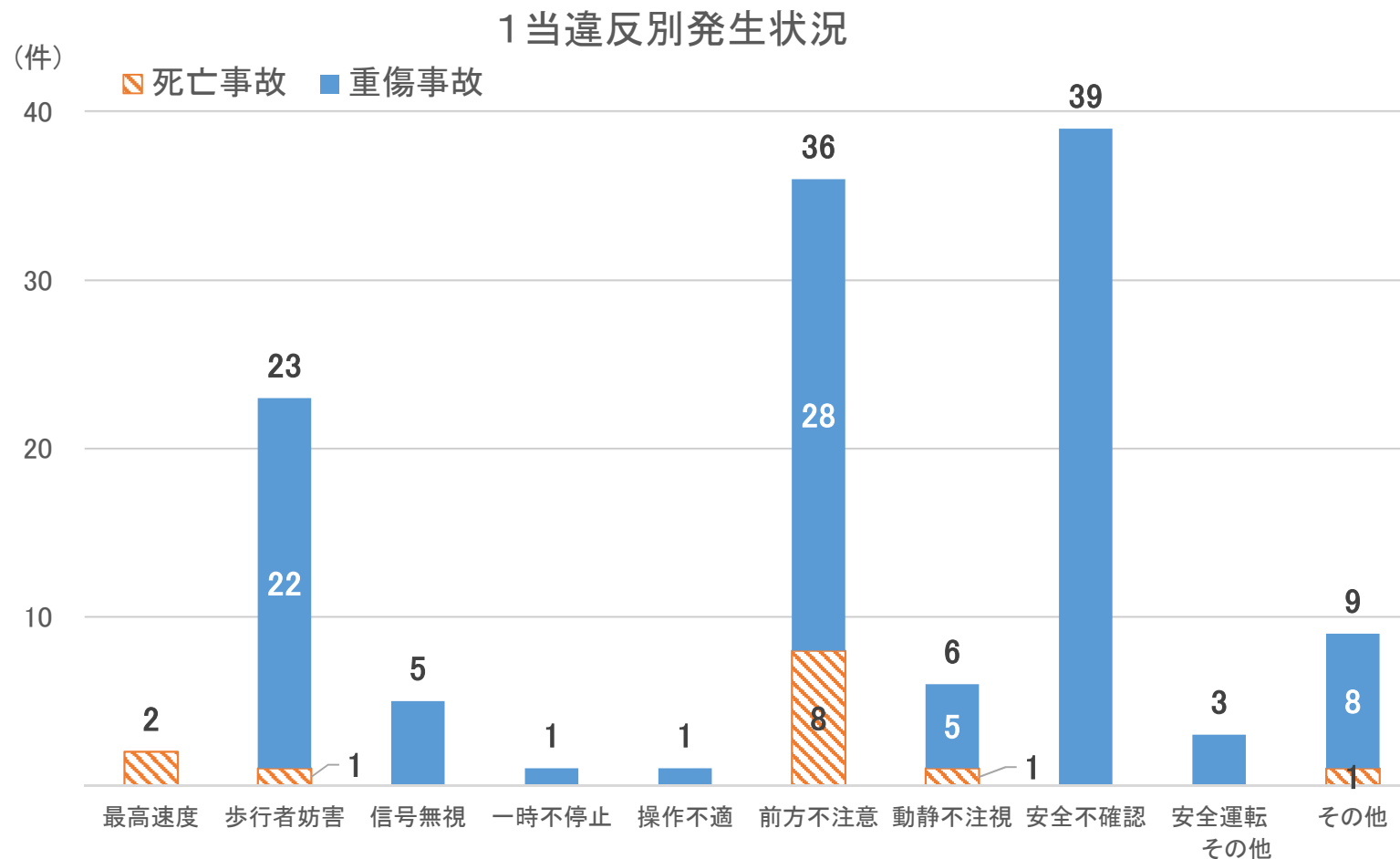
2-2 人对車両における地形別発生状況

市街地交差点及び市街地直線で9割以上を占めている。



2-3 人対車両における1当の違反別発生状況

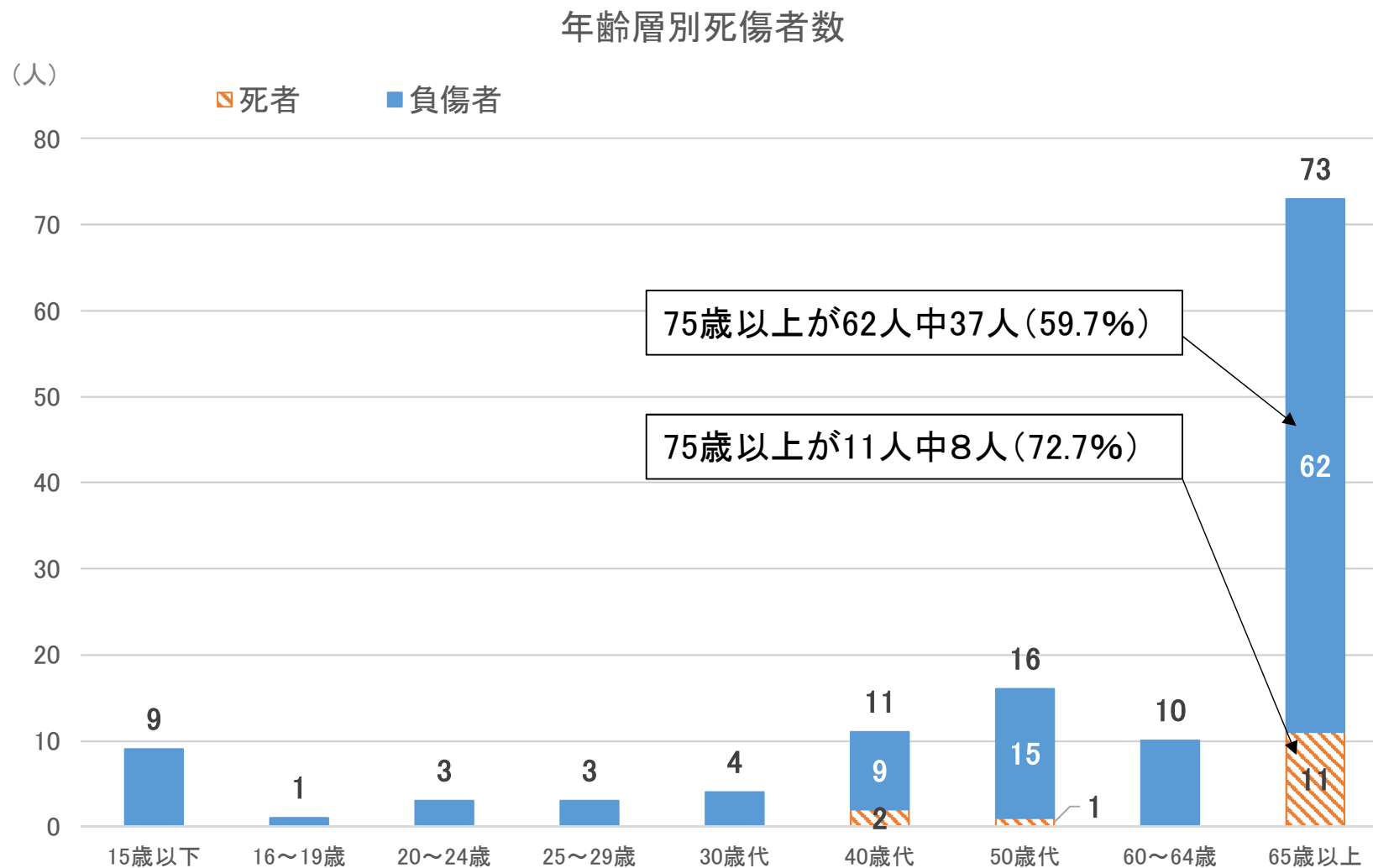
安全不確認が最も多く、次いで前方不注意が多い。



※ 1当が歩行者及び自転車の場合を除く

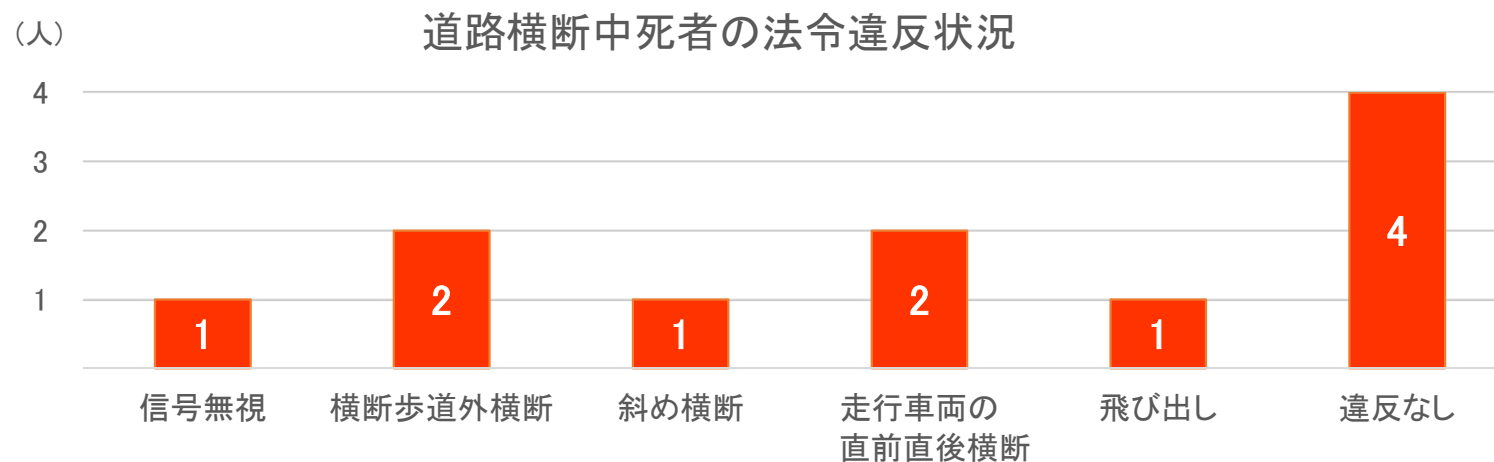
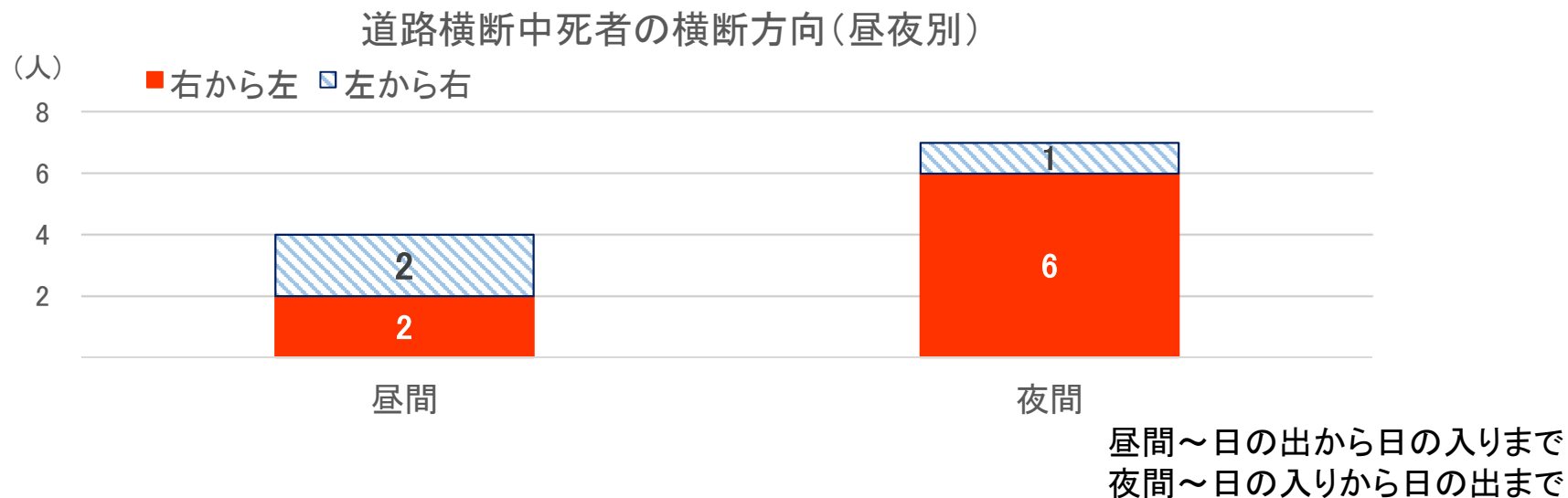
2-4 人対車両における年齢層別死傷者数

65歳以上が最も多く、全体の約6割を占めている。



2-5 人对車両における歩行者の横断方向別死者数・法令違反状況

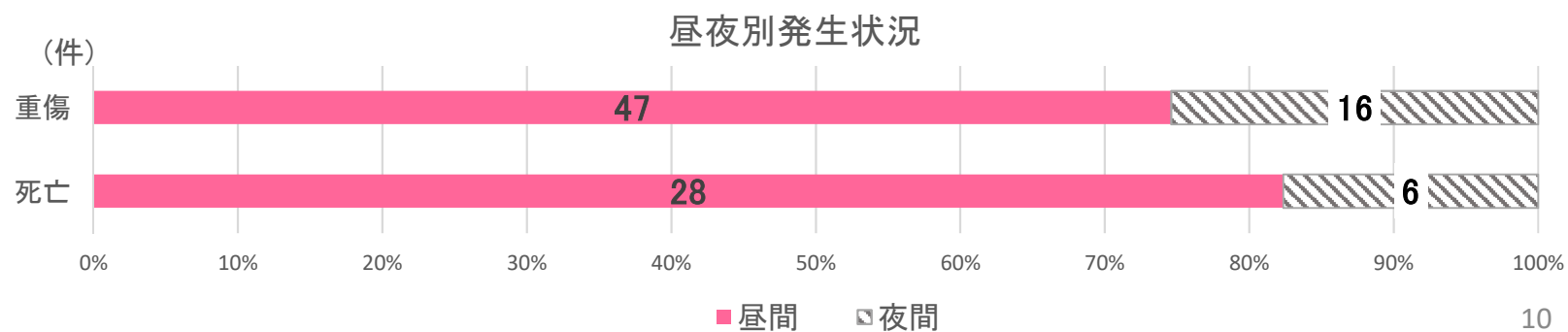
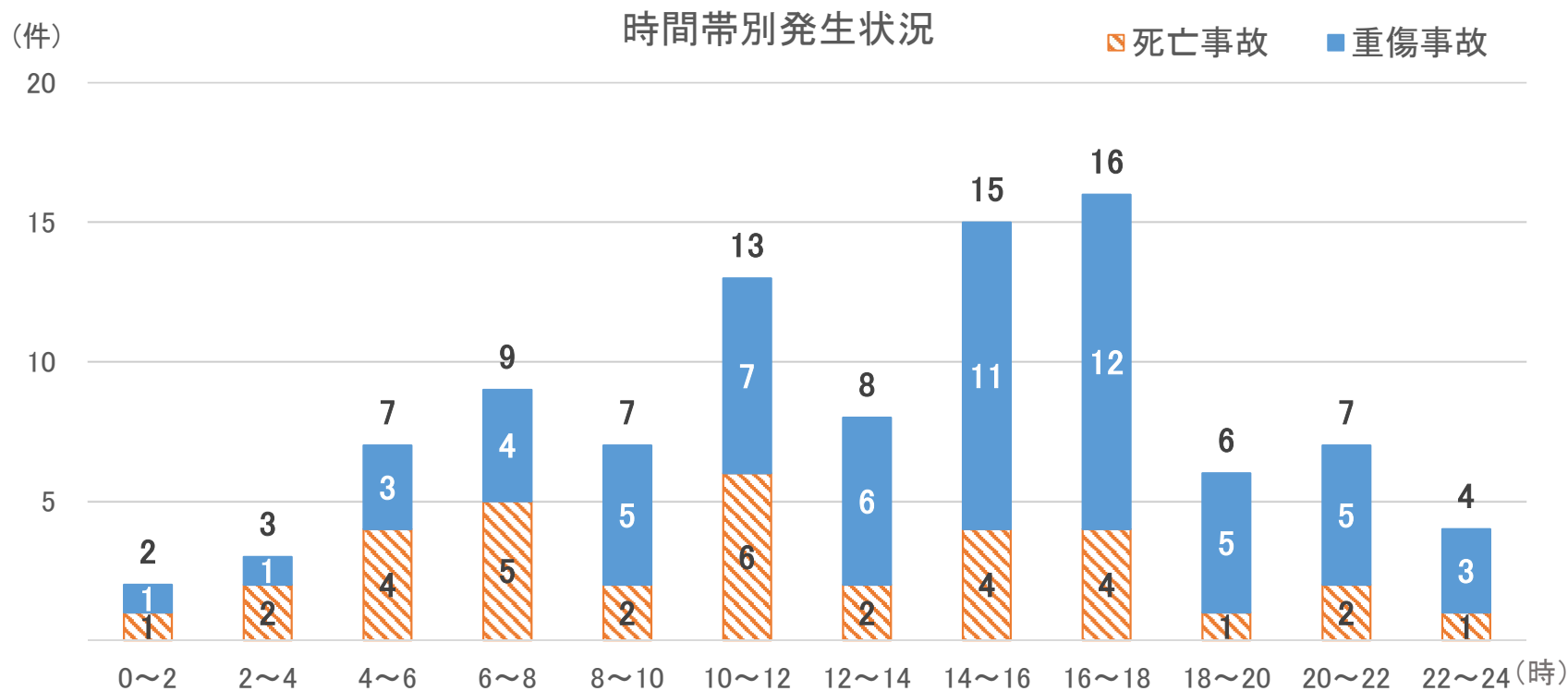
道路横断中の死者11人のうち、昼間が4人、夜間は7人となっており、夜間の死者の約9割が右から横断中である。



道路横断中の死者11人のうち、信号無視などの「違反あり」が7人(63.6%)となっている。

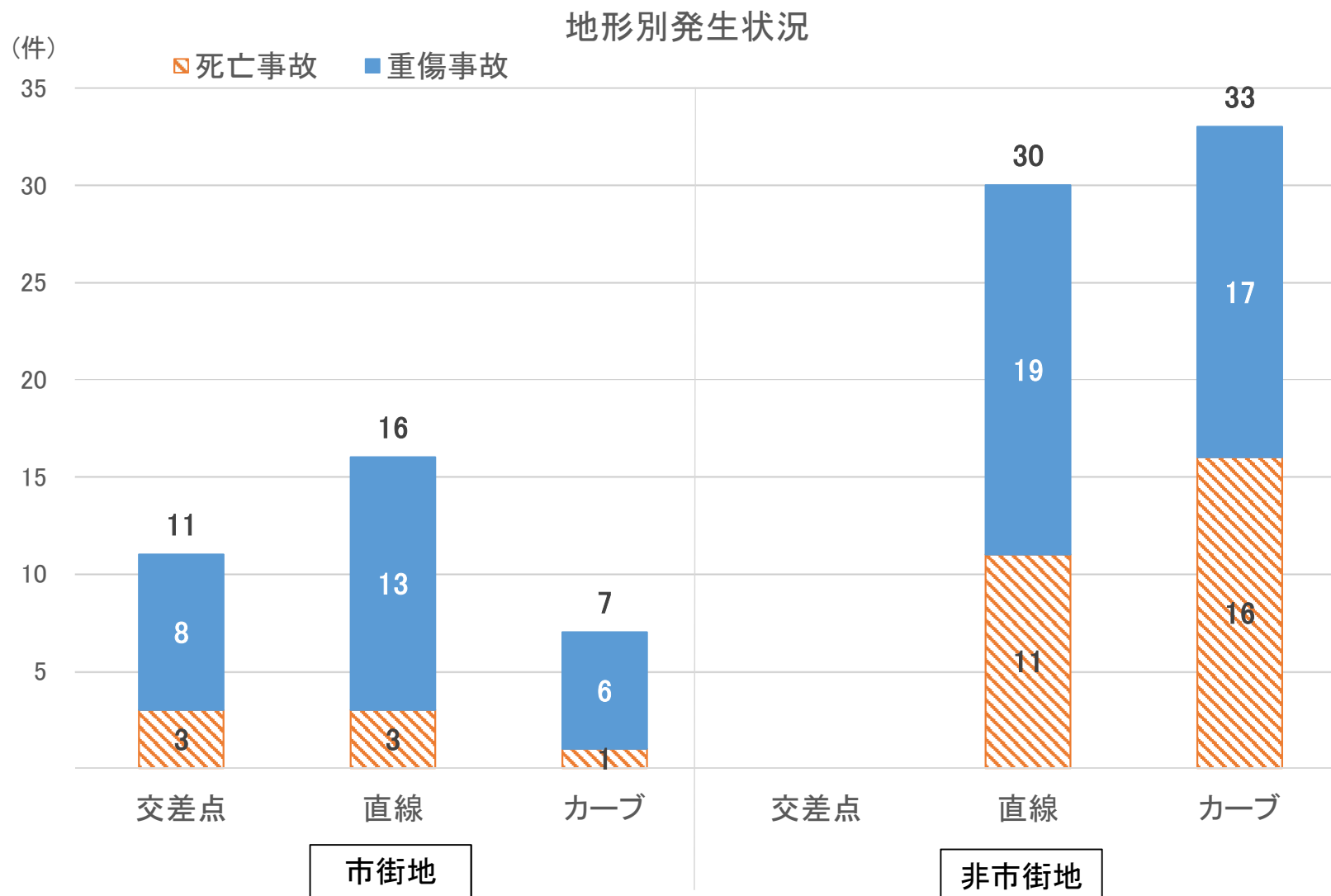
3-1 正面衝突・車両単独における時間帯別発生状況

16時～18時が最も多く、次いで14時～16時が多い。



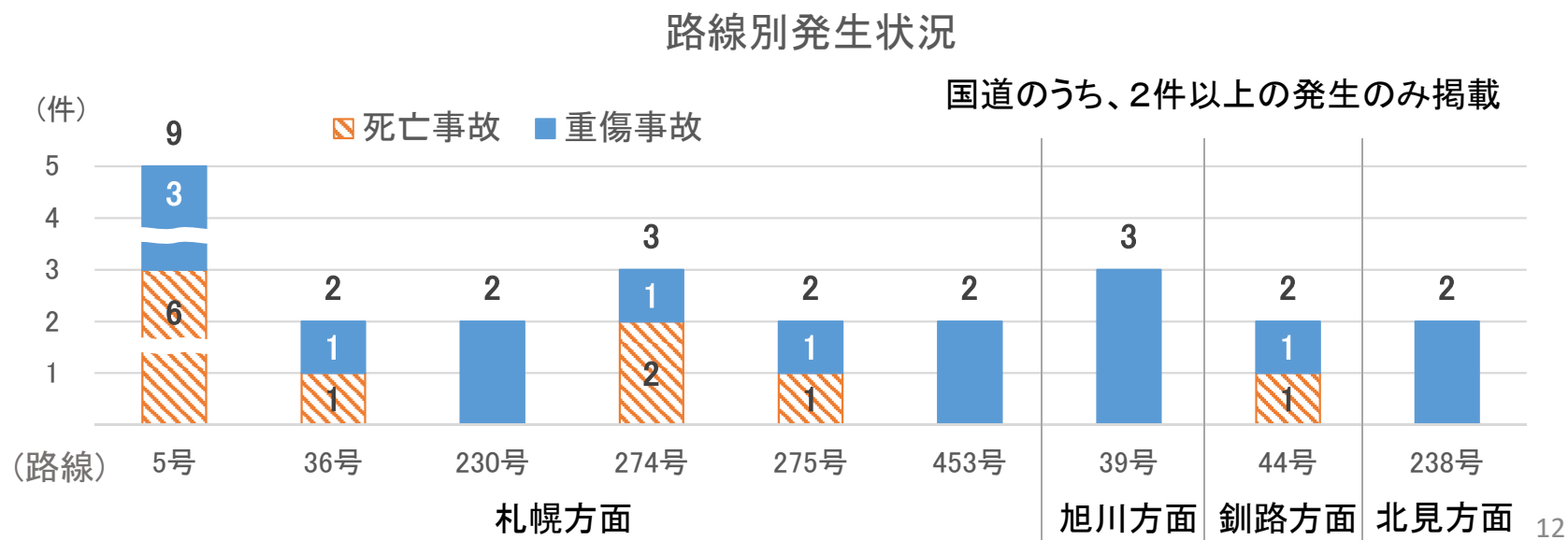
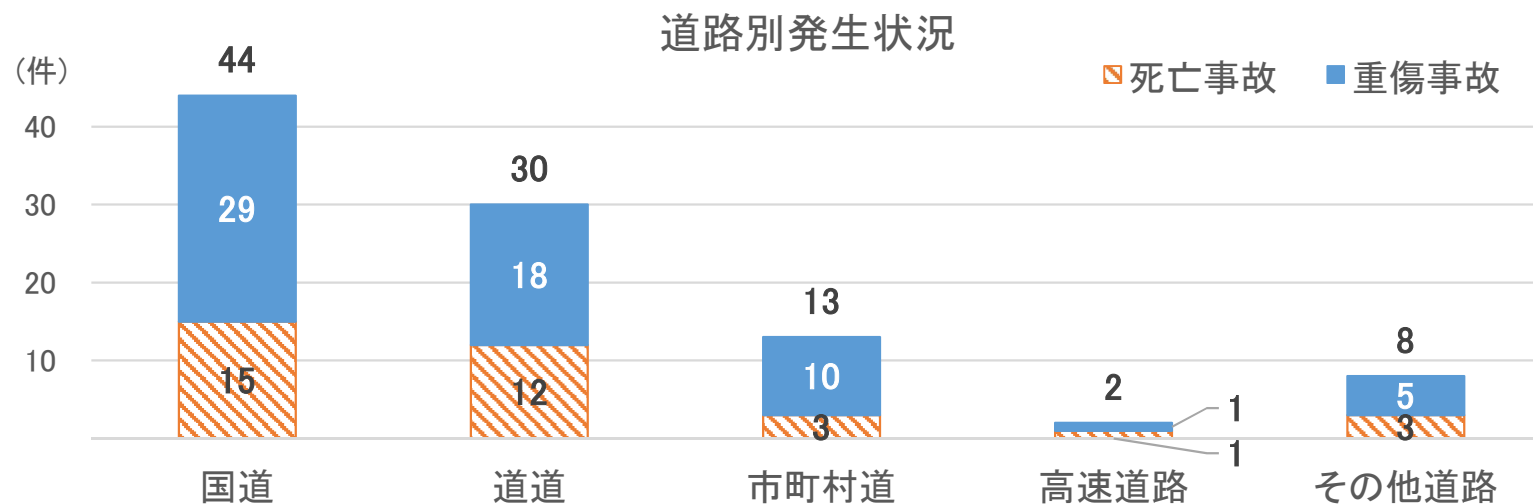
3-2 正面衝突・車両単独における地形別発生状況

非市街地カーブが最も多く、次いで非市街地直線が多い。



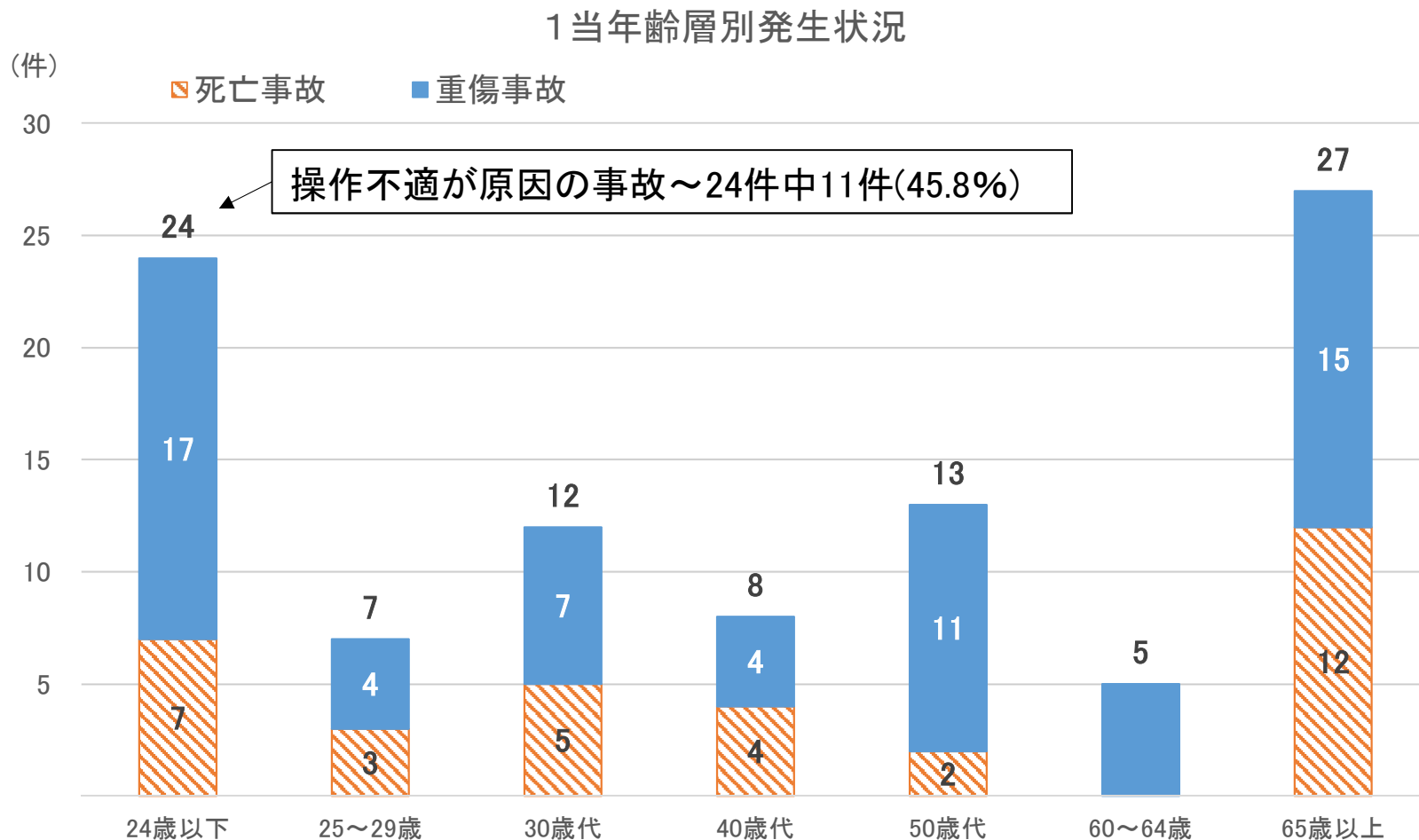
3-3 正面衝突・車両単独における道路別発生状況

国道での発生が最も多く、次いで道道が多い。



3-4 正面衝突・車両単独における1当の年齢層別発生状況

65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで24歳以下の若年運転者が多い。

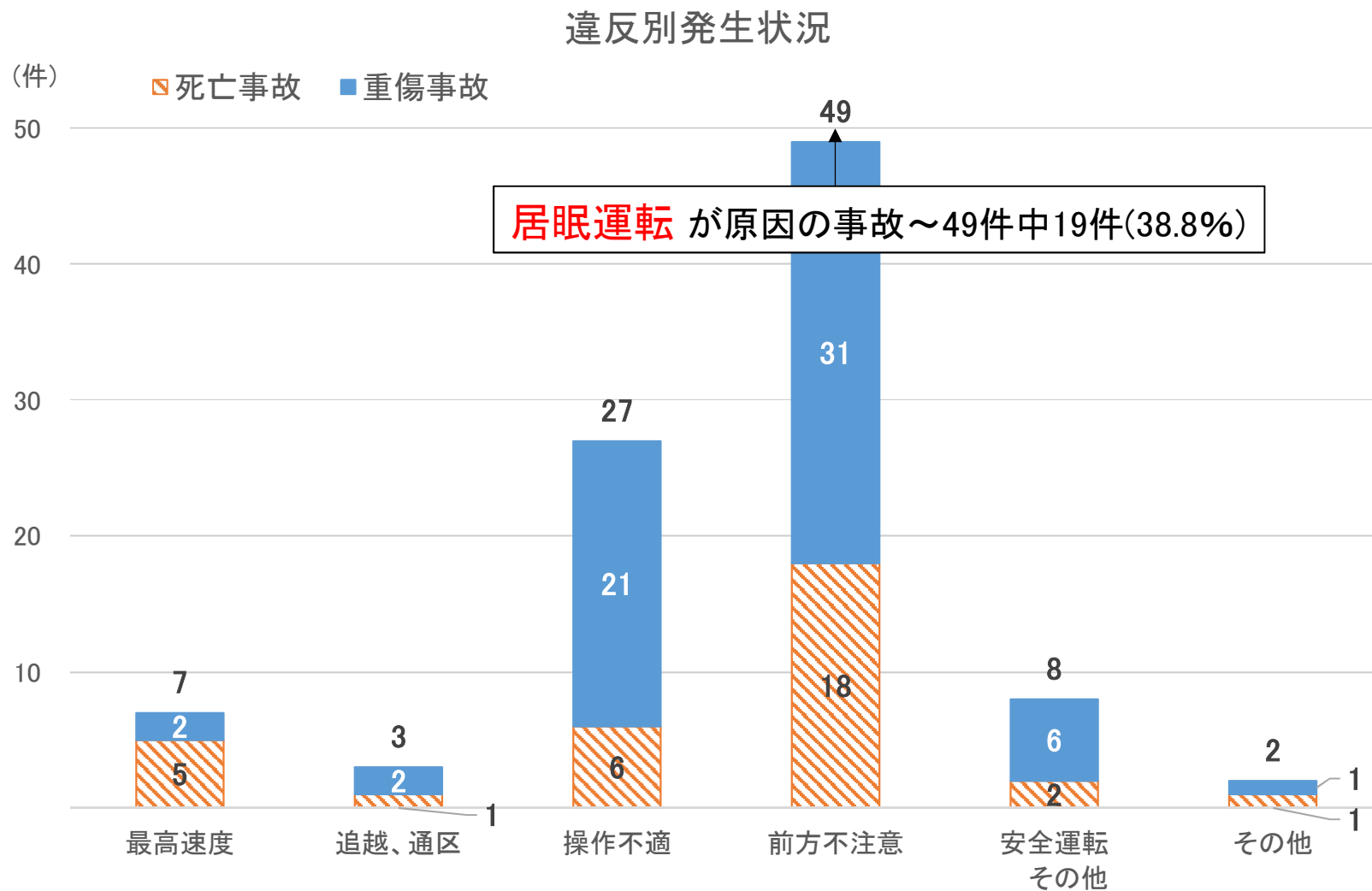


操作不適が原因の事故～24件中11件(45.8%)

※ 1当が自転車の場合を除く

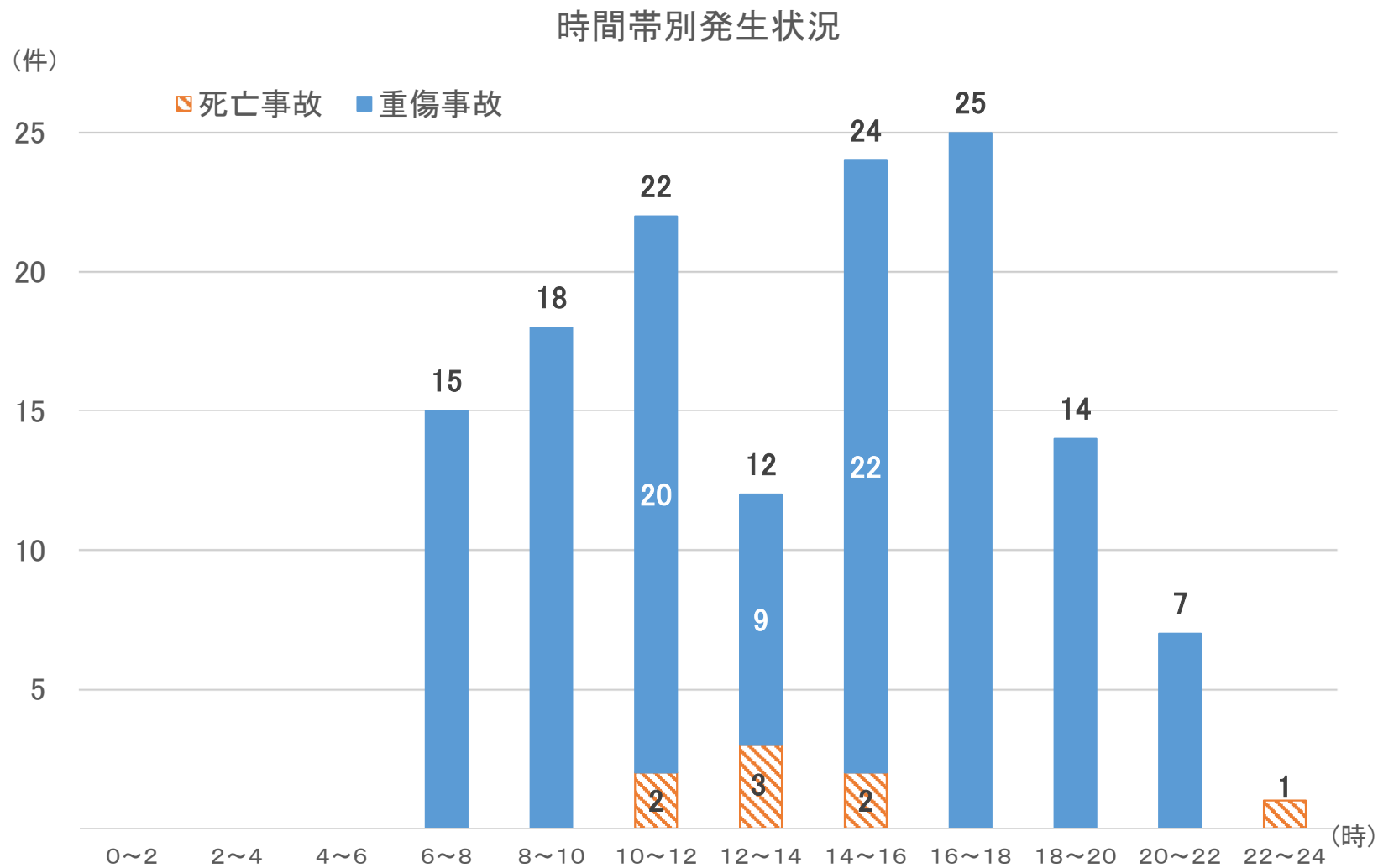
3-5 正面衝突・車両単独における1当の違反別発生状況

前方不注意が最も多く、次いで操作不適が多い。



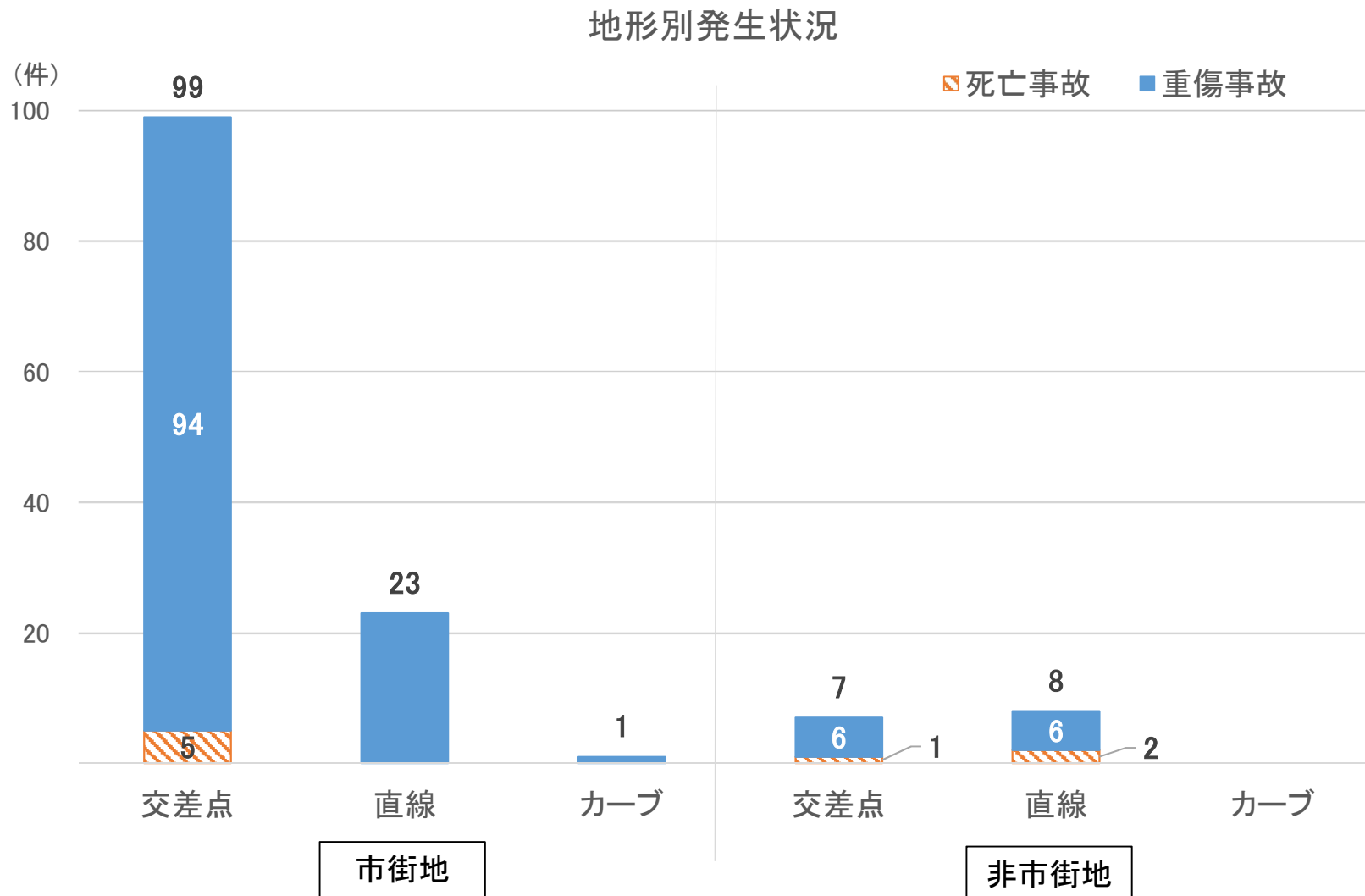
4-1 自転車対車における時間帯別発生状況

16～18時が最も多く、次いで14時～16時が多い。



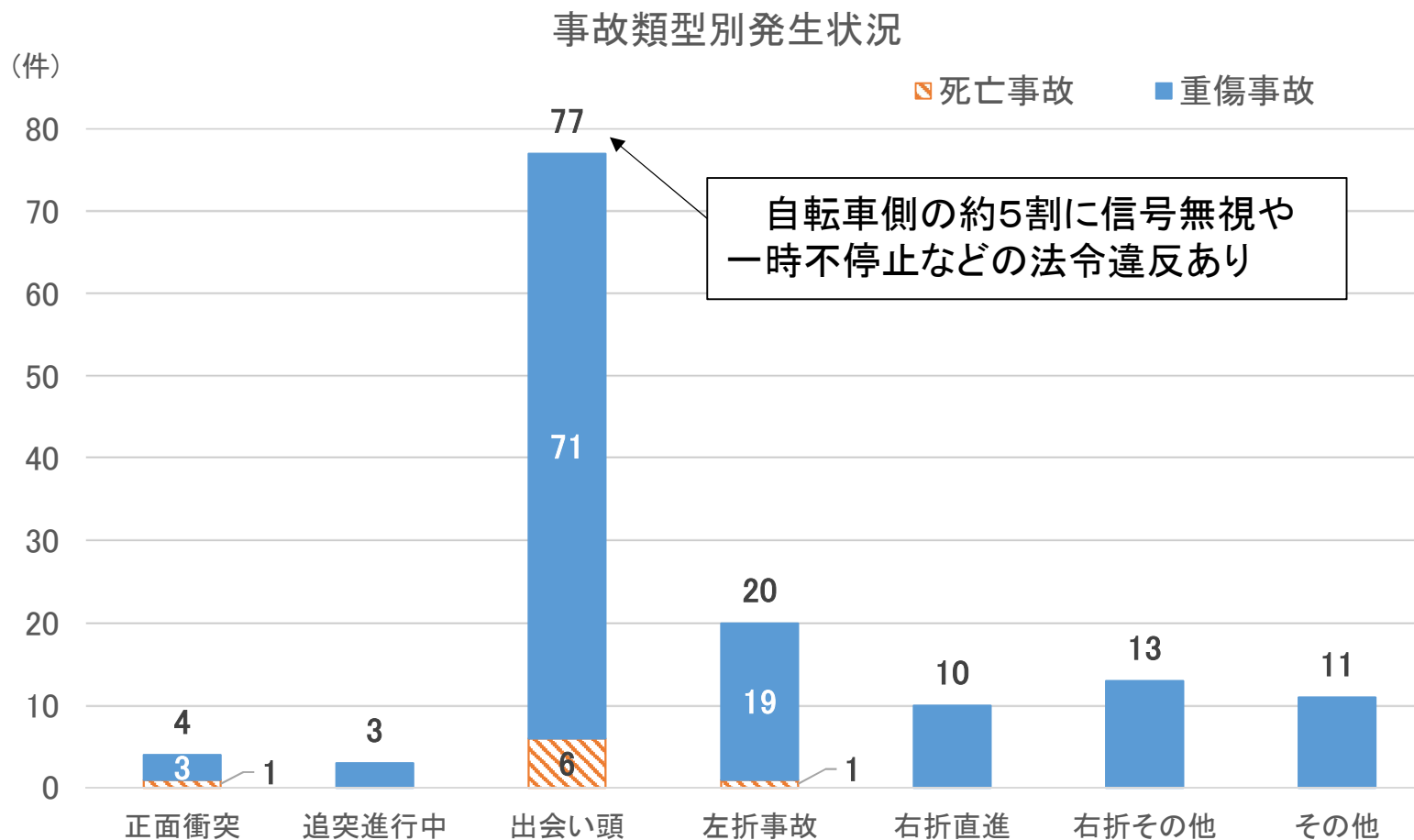
4-2 自転車対車における地形別発生状況

市街地交差点が最も多く、次いで市街地直線が多い。



4-3 自転車対車における事故類型別発生状況

出会い頭が最も多く、次いで左折事故が多い。
出会い頭のうち、自転車側の約5割に信号無視や一時不停止などの法令違反あり。



(注)「左折事故」、「右折その他」とは一方の車両等が、左折、右折時に発生した事故をいう。

4-4 自転車対車における自転車乗用中の年齢層別死傷者数

65歳以上の高齢者が最も多く、次いで15歳以下が多い。

